

「ふるさと会」3団体の連携

東京美深会 会長 鳥羽博之



我が「美深町」は一昨年、開拓120年を迎えました。天塩川流域にある美深町は、探検家「松浦武郎」の「天塩日誌」によって紹介されています。また、この中で「チョウザメ」が天塩川に生息していた記録があります。この事で、昭和55年から「ふ化飼育」を始め放流しました。平成8年に「チョウザメ館」を建設し、平成15年には秋篠宮ご夫妻が来館されています。現在は、飼育繁殖からキヤビアや食肉としての加工品への転換を図る事業を展開しております。

稲作では、米作り最北地であり、1000有余年続けられ、「がんばる農業」を目指して

今、開拓の時

東京深川会 幹事 福井尚敏



現在82歳です。北海道深川市出身です。小学校2年生の時、戦争が終わりました。父は鉄道で機関士をして家族9人の生活を守り私たち兄弟姉妹も仲良く過していました。

自分が高校生の頃生活はまだ大変だったのですが、絵を描くことだけが上手だった自分は無理を言って金沢市の金沢美術工芸大学の彫刻科に入り卒業後色々な制作に取り組み、寺院全体の壁面彫刻とか、深川東高には青年の像、深川小学校、深川市役所前庭にはブロンズ像、はまなす国体を記念してバレーボール会場に6m×3mのレリーフ像を飾りました。これらのことが私なりの故郷への恩返しかと思っています。

しかし金沢市に住んだ時、加賀百万石時代

からの伝統の世界であり、現在住んでいる茨城県坂東市は平将門が活躍した土地柄で現在の住民の皆さんも、何代何十代続く家柄の土地柄です。ただ私はこの土地の新参者であるがゆえに「代々」と言うことに関係なく勝手に発想し発言が出来るのも、北海道人だからと自負しています。

祖父父母の時代、内地から荒野だった北海道に移住して死に物狂いで大地に挑んで開拓し、現在の市町村の元を作ったのだと思います。

現在は豊かで便利な時代になり、そこで生き方にも仕事もたくさんある所と言うことで、一極集中的に東京とか札幌に人が集まり、地方の市町村は人口減少の姿があります。

と町民の交流と親睦を通じた人づくりと札幌美深会や東京美深会の発展を支援するため、住民組織を結成し、活力ある町づくりを推進する事を目的に、平成24年8月27日設立されました。

交流の一端として、「ふるさと訪問」では、美深ふるさと会と役場との力添えで、札幌及び東京美深会の歓迎・迎え入れをして頂いています。また、札幌及び東京美深会の年1回の総会では、一堂に会して親睦を深めています。本年度はコロナ禍で感染拡大防止のため中止せざるを得ず、残念に思っています。



今、コロナで日本ばかりでなく全世界が大変な状況になり不安が広がっています。なれば現在の北海道も自然の豊かさすばらしさがあるだけに市町村も今頑張っている上に、今一度新しい発想と精いっぱい知恵と必死にならざるを得ない時、未知な仕事の世界が開発されそれによって、若い人々に新しい魅力の世界としての北海道を感じさせてくれるのが今であると思っています。

画家&彫刻家
福井尚敏 第38回個展
2021年5月23日(日)～5月29日(土)
場所 東京交通会館1F ギャラリーパールルーム (JR)有楽町駅前



美幌峠道

開通100年

東京美幌会 副会長 市川冬兵衛



3年前に1300年を刻んだ美幌町は、本年、美幌峠道開通100年(1920年大正9年)を迎えました。オホーツク総合振興局と釧路総合振興局の境界にもなっている美幌峠は、この道の開通により「天下の絶景」を世に知らしめることになりましたが、開通当時は、馬車1台が、やっと通れる幅しかなく、美幌弟子屈の先住民の方々の多大な尽力がありました。

美幌町市街から30キロ足らずの美幌峠まで、今では、あっといふ間の距離ですが、100年前に想いを馳せ、もう一度「天下の絶景」を親にお出かけください。



美幌峠から見た屈斜路湖 (2019年9月)